

ボツワナ共和国月報(2020年11月)

主な出来事

【内政】

- 国際的移動制限の段階的緩和と新たな検疫措置の導入
- 531件のジェンダーに基づく暴力(GBV)の発生

【外政】

- コンゴ(民)、ボツワナとの二国間関係の強化を強く望む

【SADC】

- 南部アフリカ開発共同体(SADC)政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ、SADC介入旅団派遣国、コンゴ(民)及びモザンビーク特別首脳会議の開催

【経済】

- ボツワナにおける8月の輸出が増加
- 2021年に経済が7.7%の回復見込
- 「経済復興及び移行計画」の実施に145億プラ
- ボツワナ航空の運行再開

【内政】

○国際的な移動における制限の段階的緩和と新たな検疫措置の導入

6日及び9日、ボツワナ政府は、マシシ大統領が国際移動制限の段階的緩和を許可し、あわせ、出入国の際の新たな検疫措置について発表した。同発表により、ボツワナの出入国において、出発72時間前に受検したPCR検査の陰性証明の提示が必要となった。

○531件のジェンダーに基づく暴力(GBV)の発生

25日、ハボロネにて行われたジェンダーに基づく暴力(GBV)教育キャンペーンにて、マイケツォ国家・移民・ジェンダー省副局長は、2020年4月1日から6月30日までの間に531件のGBVが発生した旨述べた。

【外政】

○コンゴ(民)、ボツワナとの関係強化を強く望む

27日、マシシ・ボツワナ大統領及びチセケディ・コンゴ(民)大統領は、首脳会談を行った。同会談にて、コンゴ(民)は、ボツワナから民主主義の維持及び鉱物資源による経済発展の知見を学びたい旨述べた。同日、南部アフリカ開発共同体(SADC)政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカの記者会見にて、マシシ・ボツワナ大統領及びチセケディ・コンゴ(民)大統領は、ボツワナ及びコンゴ(民)の二国間関係を強化したい旨述べた。

【SADC】

○南部アフリカ開発共同体(SADC)政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ、SADC介入旅団派遣国、コンゴ(民)及びモザンビーク特別首脳会議の開催

27日、SADCは、「SADC政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ、SADC介入旅団派遣国、コンゴ(民)及びモザンビーク特別首脳会議」をハボロネにて開催し、コミュニケを発表した。同会議は、既存の介入旅団の兵力を再編し、SADC内の軍隊派遣国から緊急対応部隊(QRFs)を2部隊編成するという国連からの提案を受け入れた。また、同会議は、SADC地域が、国際連合コンゴ民主共和国安定化ミッション(MONUSCO)の段階的兵力削減共同戦略を発展させ、実行していくための支援を行う旨約束した。

【経済】

○ボツワナにおける8月の輸出が増加

ボツワナ統計局によれば、ボツワナにおける8月の輸出額は、7月の修正額である24億6,610万プラから7.9%増加し、26億6,600万となった。また、同輸出額の21.7%はインドへと輸出されていた。なお、8月の輸入額は、7月の修正額である60億300万プラから5.3%減少し、56億8,300万プラとなった。

○2021年に経済が7.7%の回復見込

9日に行われた所信表明にて、マシシ大統領は、主にCOVID-19の影響によって、2020年の経済は8.9%縮小の後、2021年に7.7%回復するだろうと述べた。

○「経済復興及び移行計画」の実施に145億プラ

9日に行われた所信表明にて、マシシ大統領は、COVID-19によってもたらされた衝撃を緩和するため、「経済復興及び移行計画」を策定し、同計画の実施に145億プラを割り当てる旨述べた。

○ボツワナ航空の運航再開

ボツワナ航空は、10日付で国際線の運航を再開することを発表した。本件は、ボツワナ政府による国際的な移動規制緩和の発表を受けて決定されたもので、ハボロネーヨハネスブルク間で週4便運行するとの由。